

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

|           |   |   |     |     |      |                                  |     |
|-----------|---|---|-----|-----|------|----------------------------------|-----|
| 指定期間      | ふりがな  | ほっかいどうさっぽろかいせいこうとうがっこう  |     |     |      | ②所在都道府県                          | 北海道 |
| 26～30     | ① 学校名   | 北海道札幌開成高等学校   |     |     |      |                                  |     |
| ③対象学科名    | ④対象とする生徒数   |   |     |     |      | ⑤学校全体の規模                         |     |
|           | 1年  | 2年  | 3年  | 4年  | 計    | 960名（各学年8学級：普通科6学級・コスモサイエンス科2学級） |     |
|           | コスモサイエンス科   | 20人   | 20人 | 15人 | 0人   |                                  |     |
| 普通科       | 40人   | 40人   | 25人 | 0人  | 105人 |                                  |     |
| ⑥研究開発構想名  | さっぽろ発「Think globally, act locally」を実践するグローバル人の育成  |   |     |     |      |                                  |     |
| ⑦研究開発の概要  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「雪・環境・読書」を切り込み口に地域の魅力や課題を見つけ、地球規模の課題と結び付けて探究する、人文・社会科学分野における「課題研究」の教育課程開発。</li> <li>・「課題研究」の充実に資するコミュニケーションスキル向上プログラムの開発。</li> <li>・課題探究的な学習成果の適切な評価方法の開発と高大接続の改善に向けた研究。</li> </ul> |   |     |     |      |                                  |     |
| ⑧研究開発の内容等 | ⑧-1全体   | <p><b>(1) 目的・目標</b></p> <p><b>目的：</b>「さっぽろ」で学んだというアイデンティティに立脚して、札幌市の考える国際的素養（「自ら課題を発見し、生涯にわたって学び続ける力」「自己を肯定し、多様な価値観を認め合う心の余裕」「未知なるものに挑戦し、自ら道を切り拓く勇氣」）を身に付けたグローバル人を育成すること。</p> <p><b>目標：</b>研究開発の目的を達成するため、次の3点を目標として設定。</p> <p>① 課題研究が楽しいと思っている生徒の数が増える。</p> <p>② 将来の札幌や国際社会に貢献したいと思っている生徒の数が増える。</p> <p>③ 夢はかなうと思っている生徒の数が増える。</p> <p><b>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</b></p> <p><b>現状の分析：</b></p> <p>① すでに自然科学分野における課題研究の教育課程開発は行われているが、人文・社会科学分野は未着手。</p> <p>② コミュニケーションスキルを高める必要がある。</p> <p>③ 日常の教科学習と課題研究の連携に課題がある。</p> <p>④ 大学受験との関係で最終学年における課題研究の取組に課題がある。</p> <p><b>研究開発の仮説：</b></p> <p>① 人文・社会科学分野における課題研究の教育課程を開発することで、課題研究に意欲的に取り組む生徒の数が増加する。</p> <p>② 「英語力」「対話力」「チーム力」の3つのコミュニケーションスキルを高めることで、課題研究が充実する。</p> <p>③ 国際バカロレア（IB）の活用により、全教科で課題探究的な学習を推進することで課題研究との連携が深まり、課題研究がより一層充実する。</p> <p>④ 課題探究的な学習の学びの成果が大学への接続に結びつくことで、安心して課題探究的な学習に取り組む生徒が増加する。</p> <p><b>(3) 成果の普及</b></p> <p>各市立高校との連携による他の市立高校への成果の普及。</p> <p>札幌市教育研究推進事業における市立小中学校への成果の普及。</p> <p>札幌市教育センター主催の教員研修講座における市立学校教職員への成果の普及。</p> <p>公開教育実践研究発表会の開催による広範な市民に対する成果の普及啓発。</p> <p>学校ホームページを通じた社会全般に対する成果の普及。</p> |     |     |      |                                  |     |

|   |   |
|---|---|
| <p>⑧<br/>-2<br/>課<br/>題<br/>研<br/>究</p> | <p>(1) 課題研究内容<br/> <b>実施内容</b>：雪・環境・読書を切り込み口として札幌・北海道の魅力や課題を地球規模の課題と結び付けて研究し、提言にまとめ発信する。（人文・社会科学分野における課題研究の教育課程開発）<br/> <b>テーマ例</b>：「【雪】雪がもたらす豊かさとは（札幌と異なる様々な地域との比較調査を通して）」「【環境】様々な文化背景を持つ人々が共存する社会とは」「【読書】知を身近に感じるための人のつながりとは（先人の知を通して『さっぽろ』を知り“Think globally, act locally”の実践をする）」</p> <p>(2) 実施方法・検証評価<br/> <b>実施方法</b>：<br/> 【第1ステージ：課題研究基礎】地域の特性を学び、その魅力と課題を探る体験学習やグループワークを実施。←地域や企業等との連携・交流による「ほんもの」体験を重視。<br/> 【第2ステージ：プロジェクト研究】雪・環境・読書を切込み口とした地域と世界を意識した具体的なテーマに関するプロジェクト研究を行い、その成果を「世界冬の都市市長会」等において「まちづくり」提言として発表。←企業や大学生の支援によるフィールドワークなどを重視。<br/> 【第3ステージ：個人課題研究】プロジェクト研究を発展させ、地球規模の課題を考察する個人研究を行い、その成果を英語の論文にまとめ各種コンクール等に応募。←海外研修でのフィールドワークや海外生徒との調査研究交流。<br/> <b>検証評価</b>：生徒・教員・保護者対象のアンケート調査や国際バカロレア（IB）の評価方法を活用した成果物の評価により検証。<br/> <b>※連携先大学・企業等</b>：小樽商科大学、パリ国際学校（IB校）、ベトナム・ハノイ市教委（調整中）、TSUTAYA（CCC）、（株）植松電機、北海道ガス（株）、クリプト・フューチャー・メディア（株）、</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等<br/> ・編入6年：「グローバル探究」（1単位）→理数「課題研究」の代替</p>   |
| <p>⑧<br/>-3<br/>上<br/>記<br/>以<br/>外</p> | <p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価<br/> ① コミュニケーションスキルを高める教育プログラムの開発<br/> <b>実施内容</b>：課題研究の充実を図るため、英語を活用する機会、異なる価値観や文化を受け止めたり考えを伝えあったりする機会、多様な価値観を持った人たちが集まって物事を成し遂げる機会等を増やす。<br/> <b>実施方法</b>：<br/> 【英語力】外国人指導者、Skype等での国内外の人々との交流機会の創出。<br/> 【対話力】疑似的に多様な価値観を体験する機会を学校内に作り出すドラマ教育やワークショップの実施。<br/> 【チーム力】チームビルディング研修の実施。<br/> <b>検証評価</b>：大学や企業が求める生徒の資質やスキルを把握したうえで、IBのMYP・DPの評価方法・評価規準を基に、学校独自のルーブリック評価で検証。<br/> <b>※連携先大学等</b>：パリ国際学校（IB校）<br/> <b>※連携協力者等</b>：NPO法人ミラツク黒井理恵理事</p> <p>② 高大接続の改善に資する、課題探究的な学習の適切な評価法の開発<br/> <b>実施内容</b>：課題研究のベースとなる各教科の学習において、課題探究的な学習を実施して、その学習成果の適切な評価方法を開発する。<br/> <b>実施方法</b>：ルーブリックを用いたIB評価の実践研究、eポートフォリオなどを活用した評価資料（エビデンス）の開発。大学教員や企業等との定期的な研究協議の実施。<br/> <b>検証評価</b>：開発した評価法の信頼性について大学関係者等から意見聴取を実施し検証。<br/> <b>※連携協力者等</b>：北海道大学高等教育推進機構飯田直弘准教授（教育学博士）</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし<br/> (3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程外の実施内容・実施方法<br/> ・ICT環境の整備（無線LAN環境）によるタブレット端末の活用。<br/> ・外国人指導者を活用した日常的に英語を活用できる環境の創出。<br/> ・IB認定校を目指すことで、すべての教科で課題探究的な学習を実施。</p> |
| <p>⑨その他<br/>特記事項</p>                    | <p>平成27年度からの中等教育学校への改編を活用し、開成高校生、中等教育学校編入生、中等教育学校新入生の3タイプの教育課程による取組の比較検証も実施する。</p>  |